

文學博士佐々木信綱君著「日本歌學史」及「和歌史」の

研究ノ授賞審査要旨

「日本歌學史」ハ平安朝以來徳川末期ニ至ル諸歌人諸學者ノ歌論ヲ中心トシテ廣ク一般ノ歌學ニ亘リ其ノ思想學說ノ變遷發達ヲ明カニセルモノナリ。其資料トセシ所ハ從來既知ノ文献ニシテ之ヲ使用セザルモノ殆ド無キノミナラズ顯昭ノ六百番陳狀ノ完本源承ノ和歌口傳、戸田茂暉ノ寛文五年ノ文詞、百人一首雜談、富士谷御杖ノ歌道非唯抄北邊髓腦、六人部是香ノ長歌玉琴、仁安ノ和歌現在書目録等從來學界ニ或ハ殆ド知ラレズ或ハ殆ド注意セラレザリシ諸書ヲ搜索涉獵シテ廣ク之ヲ紹介セリ。就中中世歌學ニ於テハ第三章中ニ萬葉研究ノ淵源ヲ明ラカニシ第十章ニ反二條派ノ活動ヲ説キ近世歌學ニ於テハ第二章ニ國歌八論ヲ論ジ第五章ニ江戸派ノ歌學ヲ説テ加藤枝直ノ説ヲ紹介シ第六章ニ小澤蘆庵ノ説、第九章ニ富士谷父子ノ學ヲ論ジマタ第十一章以下三章ニ於テ從來注意セラレザリシ歌格ノ研究ヲ捉ヘテ諸學者ノ努力ヲ闡明セル等最モ注意ニ値ス。蓋シ本書ハ吾ガ國民ノ文學論ト文献學トノ大部分ヲ占メシ歌學ノ發展ヲ研究セル第一ノ試ミニシテ本邦文學史ノ缺ヲ補フモノ多クマタ將來ノ研究ノ途ヲ開ケルモノナリ。

「和歌史の研究」ハ上世ヨリ近世ニ至ル和歌及ビ歌學ノ諸般ノ問題ニ關スル特殊の論文ヲ收メタルモノニシテ或ハ元曆校本萬葉集十四冊、天治本萬葉集一卷、萬葉集抄二冊、仙覺奏覽狀一卷、西本願

寺舊藏本萬葉集二十冊、類聚證一冊、歌經標式異本一冊等著者ガ新ニ發見セル古典籍ヲ紹介シ或ハ第一編ニ於ケル叙事詩入高橋蟲鷹、第二編ニ於ケル歌謠史ノ研究ト其新資料、同ジク中世ノ新派第三編ニ於ケル石上私淑言ノ第三卷、村田春海ノ歌風及ビ歌論等或ハ其見識ニ於テ或ハ其新史實ヲ提供セル點ニ於テ注意スベシトス。而シテ全編ヲ通シテ最モ推スベキハ第一編第二章萬葉集ノ一章トス。

之ヲ要スルニ「日本歌學史」ハ著者ノ研究ノ總論「和歌史の研究」ハ其各論トモ謂フベシ若シ夫レ強テ其未ダ至ラザル所ヲ舉グレハ和歌ノ變遷ニツイテ其各時代ノ精神上及物質上ノ情態トノ關係ヲ明ニスル叙述ノ稍々足ラザルコト部分的研究ニ深クシテ各部分ノ聯絡ヲ示スコトノ淺キガ爲メニ稍々隔靴搔痒ノ憾アルコト和歌ト音樂トノ關係ニ論及セザリシコト等ノ點ヲ指摘シ得ベシ然レドモ著者ハ家學ヲ承ケテ和歌ニ長ズルノミナラズ十年一日ノ如ク心ヲ學問ニ潛メ其勞洵ニ多トスベキモノアリ而シテ此二書ノ如キハ精到ナル研究ノ結果及ビ蘊蓄ヲ發表セルモノニシテ學界ニ寄與貢獻スルコト尠少ナラズトス。